

# 組織と制度の経済分析：展望

石黒真吾  
大阪大学

2011年11月3日

# 報告目的と報告プラン

- 「組織と制度」の機能に注目した経済学の潮流を概観する．
- 「企業とは何か？」という古典的な問を軸にした経済学の発展をたどる．
- 「所有権」や「権限」の役割に注目．
- 最近の研究動向と学説史との接続

# 「組織の経済学」の起こり：企業とは何か？

- 企業はなぜ市場に存在するのか？( R. Coase (1937) )
- 「企業」は，市場取引を内部化することで，市場における取引費用（交渉費用，取引相手の探索費用，情報収集費用など）を節約できる．

- では、なぜ市場取引すべてが企業に代替されてしまわないのか？
  - 後の「不完備契約理論」の発展を促す問題。
  - 「計画経済（組織）は市場経済を代替できるか？」（経済計画論争との関連性）。

# 問題設定

- 前提 1 : 組織構成員の利害は完全には一致していない .
- 前提 2 : 情報や契約に関わる制約の存在 .
  - 情報の非対称性
  - 契約の不完備性

# 情報の非対称性

- 「情報の非対称性」の経済分析：70年代以降に発展（G. Akerlof, J. Stiglitz, M. Spence など）。
- メカニズム・デザイン：経済制度を与件とみなすのではなく、それ自体を設計しようという問題（L. Hurwicz, E. Maskin, R. Myerson）。「組織や制度」をデザインするという発想を経済学に与え、企業組織や取引制度（例：入札制度）などの分析に大きく貢献。

## 契約の不完備性：「取引費用の経済学」の視点

- Coase の問題に戻る．取引制度はどのように選択されるか？
- 取引資産の特殊性 (O. Williamson)：当該取引相手以外での取引では価値が低下するような資産．

- 特定の仕様の自動車部品を生産する：
  - 部品メーカーが部品生産のための資産を購入（取引に特殊な投資）。
  - 部品メーカーは当該自動車メーカー以外では部品の販路を見いだせないかも。
  - 自動車メーカーから部品価格の値下げを迫られるかも（「ホールドアップ問題」）⇒ 事後的な交渉
  - 事後交渉を見越して，部品メーカーは特殊な投資を控えるかも。



## 企業の境界

- 事後的な交渉の費用や部品メーカーによる事前の過少投資の発生。
- こうした「取引費用」を削減するために部品生産を内部化する（垂直統合）。

- なぜ，すべての取引は単一の企業に統合されないのか？
  - 官僚化の費用，インフルエンシ活動の発生，etc.
  - しかし，体系的な理論枠組みでは説明がなされているとは言い難い．

## 不完備契約理論の登場

- 情報の制約ではなく，契約の不完備性に注目する理論：80年代後半以降に発展 (S. Grossman, O. Hart. J. Moore)
- 取引に関わる将来起こりうるすべての事象を予想し，完備な契約を事前に作成することは難しい（また非常に費用がかかる）。
- 契約に代わる役割として「所有権」に注目。

- 「所有権」の機能：残余コントロール権
  - 契約に明記されない出来事が生じた場合，物的資産を自由に処分・利用する権利．
  - 物的資産の所有を通じて他の主体に対する Power を獲得．

## 所有権とPower

- “Economists have written a great deal about why property rights are important... However, they have been less successful in explaining why it matters *who* owns a piece of private property.” (Hart (1995,p.5))
- “...the approach proposed in this book has something in common with Marxian theories... an employer has power over a worker because the employer owns the physical capital the worker uses...” (Hart (1995, p.5))

## 所有権の機能

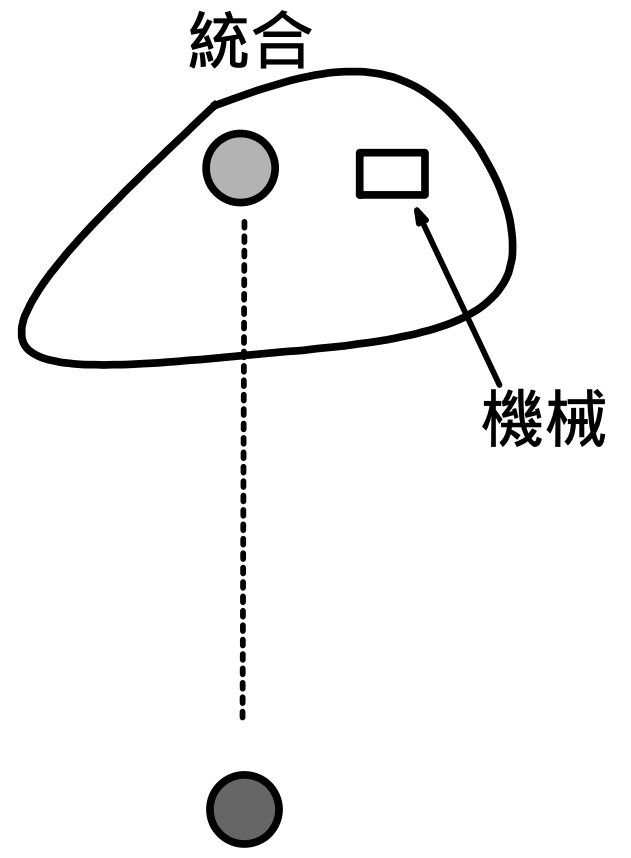
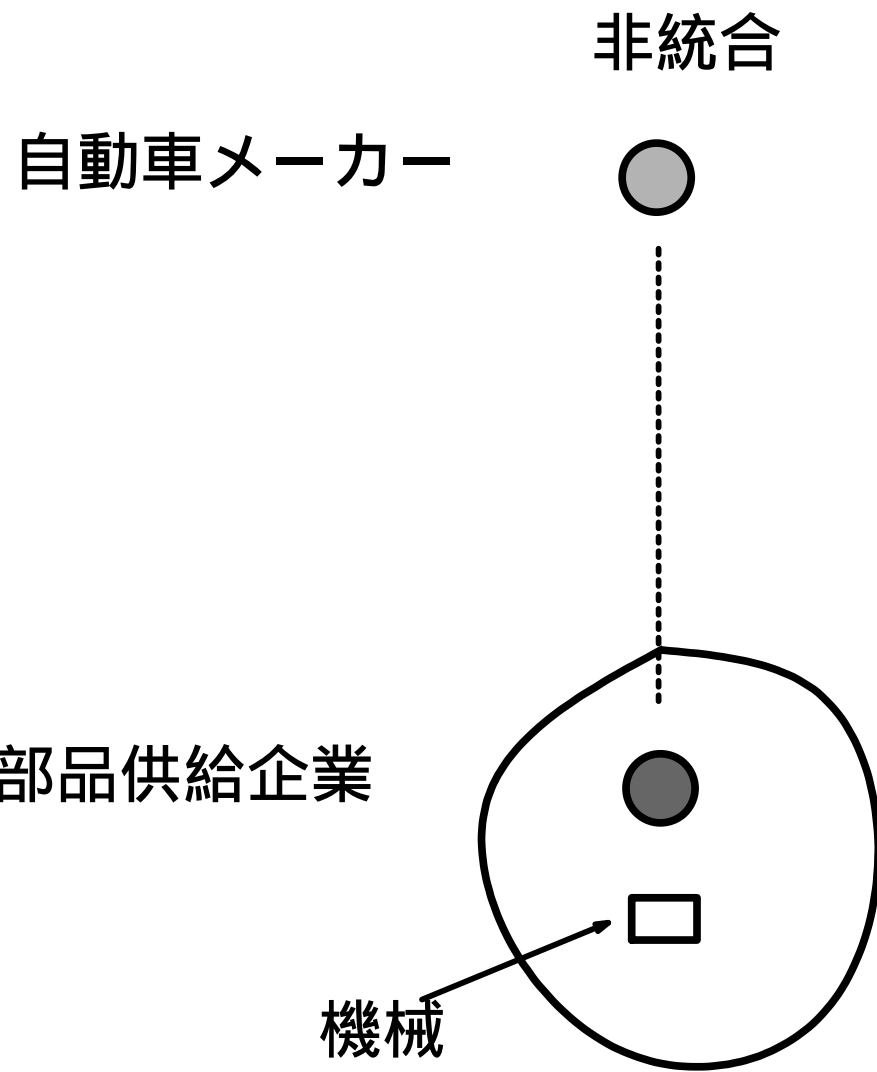
- 完備な契約が事前に書ければ，取引はすべて契約で実行可能．よって，所有権の配分は効率性には影響なし（「コースの定理」）．
- 契約が不完備な場合，所有権を誰に配分するかは効率性に影響を与える！
- なぜ？

## 効率的な所有権配分

- 部品生産の機械を部品メーカーが所有する（非統合）。
  - 機械を所有している部品メーカーは、事後的な交渉を有利に進められる。
  - 部品メーカーの特殊な投資を促進する。⇒ 過少投資を緩和。
- 自動車メーカーが機械を所有する（統合）: 自動車メーカーの事前の投資を促進する。

- 誰が機械を所有するかは事前の特殊な投資に影響を与えることで、取引全体の効率性に影響する（Grossman-Hart-Moore）。





## 権限の役割

- 意思決定の権限を誰が持つべきか？
- 完備契約が書けるなら，誰が持ってもよい（コースの定理）．
- 完備契約が書けないなら，権限の配分が重要になる．
- 権限を持つことは他の主体に対して **Power** をもつ．

- 形式権限と実質権限 (M. Weber)

- 形式権限：法律上（形式上）与えられた権限．
- 実質権限：形式上ではなく実質的な決定を行う権限．
- 例：株主（形式権限）と経営者（実質権限）

- 組織のだれが形式権限をもち，だれに実質権限を与えるのか (P. Aghion, J. Tirole) ?
- 権限移譲の正の効果：権限の保有者は権限行使に伴う Power を獲得．権限委譲によって努力インセンティブを促進する．
- 権限移譲の負の効果：権限を他者に移譲することで，自分で支配できる決定が減少する．

## 「インセンティブ・システム」としての企業

- 労働者にインセンティブを与える手段には補完性がある（P. Milgrom and J. Roberts）
- 「企業」 = 「相互に補完しあうインセンティブ手段の束」としてとらえる．

- 物的資産の保有：保有者に物的資産を適切に管理するインセンティブを与える．
- 成果型報酬：より成果に依存した賃金契約は高い努力インセンティブを与える．
- 労働に関する自由度：制限の少ない生産活動（労働）ほど，それへのインプットを高める．

- これら三つは相互に補完的 (complementary/supermodular) である：ある要素投入にともなう限界利益は，他の要素投入の増加によって上昇する．
- 独立契約型 (independent procurement)：物的資産の保有，成果型報酬，高い労働の自由度を組み合わせる．
- 雇用関係 (employment relationship) = 「企業」：労働者に対して，物的資産の非保有，固定賃金，低い労働の自由度を組み合わせる．

## 制度の理解に向けて：動学プロセス

- これまでの分析は，静学的な制度の設計問題に主眼が置かれていた．
- 組織や制度の動学的な変化(進化)過程を記述する．
  - 企業の組織はどのように変化するのか(例:分権化 vs 集権化)?
  - 企業の組織変化は市場や経済発展のプロセスとどのように関わるのか?



## 制度の理解に向けて：組織動学

- 企業組織の選択（分権か集権）と市場均衡との動学的な相互作用を捉える（Ishiguro）.  
問屋制（分権）⇒ 工場制（集権）⇒ 現代大企業（分権）
- 暗黙的な長期関係に基づく非市場システム（関係融資や共同体的配分など）を，市場システムの生成や経済発展との関連においてとらえる（Ishiguro）.  
関係依存型ガバナンス ⇒ 市場型ガバナンス

## 制度の理解に向けて：マクロ的視点の導入

- 制度選択は，経済発展など長期的なマクロ経済パフォーマンスに持続的な影響をもたらす．
  - 経済発展における公式制度（財産権保護，裁判所による公的な契約執行など）の役割（D. North）．
  - 歴史における私的な契約執行制度の役割（A. Greif）．
  - 植民地政策と「制度の移植」（例：私的財産権保護など）との関係（D. Acemoglu）．

## 学説史との接続

- 生産の「技術」ではなく、「どのように生産を組織するか」という問題への注目。
  - 「分業」(A. Smith) とは技術効率の問題か組織の問題か? (D. Landes, S. Marglin) .
- 「所有権」や「権限」を誰に配分するかといった、「力関係」の問題に注目。
  - Marx や Weber の議論との関連性 . 他には?

- 公式制度（国家，司法）と私的制度 = private order
  - 私的制度：明示的な契約・約束によらない，暗黙の了解に基づく行動規則（慣習，文化，規範なども含む）。
  - 人々は自己利益に基づき暗黙の合意に従う。  
⇒ 正義，道徳，規範の「人為性」および Convention の役割 (D. Hume) 。
  - 経済発展は公式制度の発展と連動 (D. North) 。
  - ⇒ 公式制度の成立と私的制度の役割との関係 (代替的 or 補完的) を，近代の社会学者はどう見ていたか？
- 市場経済の生成は他の取引制度の発展とどのように関わるのか？  
(K. Polanyi)